

平成29年度

通期業績予想

〔上半期決算反映版〕

平成29年12月

箕面都市開発株式会社

上半期決算に基づく通期業績予想の概要

1 平成29年度予算と通期業績予想を比較すると

- 通期業績予想では、予算編成時の見込みに比べ、営業利益、経常利益、当期純利益とも予算を大きく上回る見込みであり、経営は順調です。

2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、**調停条項の想定推移を上回る見込み**です。
- 平成24年度末に債務超過が解消された純資産額についても、**調停条項の想定推移を引き続き上回る見込み**です。
- 本業の利益を示す営業利益など、いずれの利益ベース(営業利益・経常利益・当期純利益)においても、**調停条項を上回る見込み**です。

3 今後の展望

- 今期は売上高はほぼ予算通りで、営業利益、経常利益は予算を上回る見込みとなっており、調停条項に対しても各利益ベースで上回り、引き続き、順調な経営予想となっています。
- 今後もキャッシュフロー安定化のための経営努力を行います。

平成29年度

通期業績予想

1. 平成29年度通期業績予想

(単位:千円・%)

	平成29年度			平成29年度通期業績予想との比較			
	調停条項	予算額	通期業績予想	調停条項		予算額	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	106,880	128,500	129,327	22,447	21.0	827	0.6
営業利益	14,380	18,000	20,642	6,262	43.5	2,642	14.7
経常利益	12,599	16,064	18,194	5,595	44.4	2,130	13.3
当期純利益 (※)	6,175	8,880	10,064	3,889	63.0	1,184	13.3
期末資金残高	85,573	108,193	108,522	22,949	26.8	329	0.3
純資産額	28,114	52,534	53,717	25,603	91.1	1,183	2.3

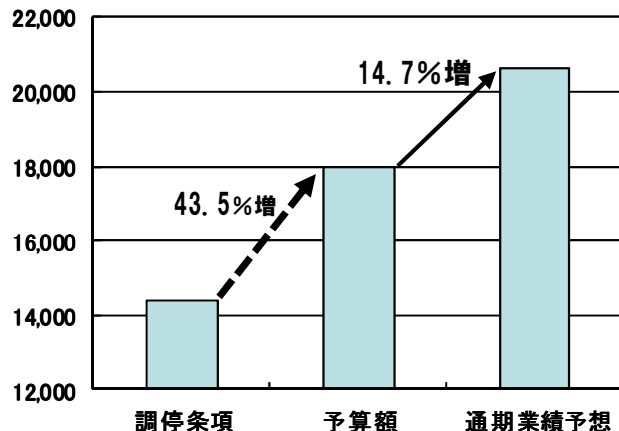
(※)法人税等調整額を除いています。

法人税等調整額とは・・・税務上の損金、益金で算定される課税所得と企業会計上の費用、収益で算定される当期純利益との差額を調整するものです。

通期業績予想では、すべての項目において、予算額を上回る予定です。

2. 平成29年度営業利益（本業利益）の比較

(千円)



調停条項、予算額ともに上回る予定となっています。

要因

不動産の賃料収入が増加見込みであることと、人件費をはじめとした経費の削減が営業利益増加の要因です。

3. 貸借対照表

(単位:千円)

	平成28年度 (平成28年9月30日現在)		平成29年度 (平成29年9月30日現在)		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	
資産合計	529,605	100.0	537,650	100.0	8,045
流動資産	114,719	21.7	128,434	23.9	13,715
固定資産	414,886	78.3	409,216	76.1	▲5,670
有形固定資産	375,804	90.6	374,650	91.5	▲1,154
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	38,786	9.3	34,270	8.4	▲4,516
負債合計	458,343	86.5	460,218	85.6	1,875
流動負債	23,668	5.2	24,067	5.2	399
固定負債	434,675	94.8	436,151	94.8	1,476
純資産	71,262	13.5	77,432	14.4	6,170

純資産(繰延税金資産除く)	42,484	—	53,717	—	11,233
---------------	--------	---	--------	---	--------

※繰延税金資産とは・・・将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰延処理することにより生じる資産のこと

4. 決算実績と予算・通期業績予想の対比

(単位:千円・%)

	平成28年度 (予算)		平成28年度 (決算)		平成29年度 (予算)		平成29年度 (通期業績予想)		増減率	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	H28決算・ H29業績予 想対比	H29予算・ H29業績予 想対比
売上高	128,000	—	129,836	—	128,500	—	129,327	—	▲0.4	0.6
受託料収入	79,380	—	78,832	—	79,723	—	79,827	—	1.3	0.1
所有床賃貸収入	8,971	—	8,884	—	8,551	—	8,551	—	▲3.7	0
土地賃貸収入	22,129	—	23,499	—	22,776	—	23,513	—	0.1	3.2
受取手数料収入	2,620	—	2,885	—	2,500	—	2,597	—	▲10.0	3.9
文化・交流センター売上	14,900	—	15,736	—	14,950	—	14,839	—	▲5.7	▲0.7
営業利益	21,500	16.8	25,539	19.7	18,000	14.0	20,642	16.0	▲19.2	14.7
経常利益	19,540	15.3	23,303	17.9	16,064	12.5	18,194	14.1	▲21.9	13.3
当期純利益	—	—	8,687	6.7	—	—	—	—	—	—
当期純利益 (法人税等調整額除く)	10,559	8.2	13,203	10.2	8,880	6.9	10,064	7.8	▲23.8	13.3

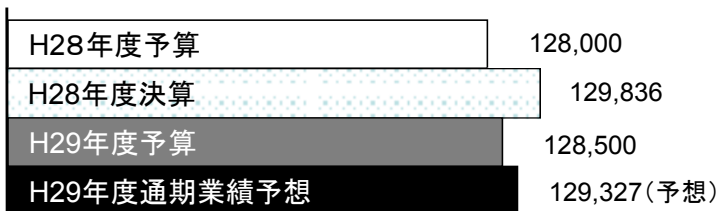
5. 売上高・利益ベースの推移

- ・平成28年度決算は、各利益ベースとも予算を上回る収益が確保できました。
- ・平成29年度も、前期に引き続き、予算時に比べ売上高、営業利益、経常利益、すべての利益ベースとも上回る予定です。

H28決算・H29予算と通期業績予想の比較・主な要因

■売上高

(単位:千円)



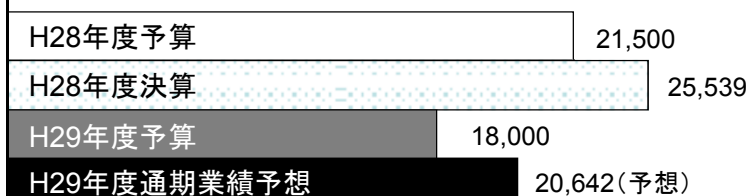
決算比0.4%減

- ・前年通り

予算比0.6%増

- ・予算通り

■営業利益



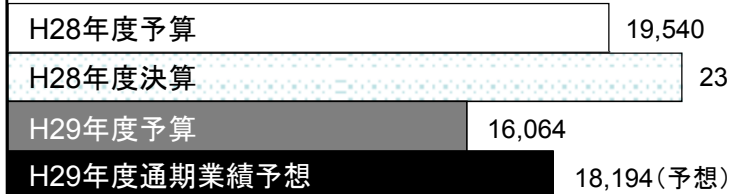
決算比19.2%減

- ・不動産取得に係る不動産取得税等の費用増加による

予算比14.7%増

- ・不動産の賃料収入の増加見込みによる

■経常利益



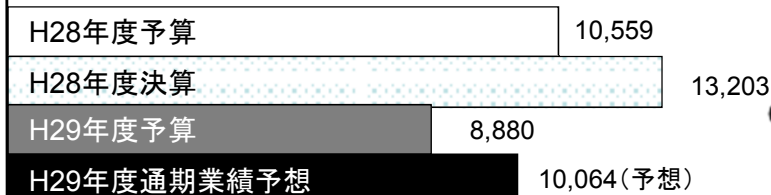
決算比2.6%減

- ・営業利益の減益による

予算比13.3%増

- ・営業利益の増益による

■当期純利益



決算比23.8%減

- ・経常利益の減益及び不動産取得による長期借入金の支払い利息計上による

予算比13.3%増

- ・経常利益の増益による

参考1：経営内容を判断するポイント

■ 貸借対照表や損益計算書で経営判断することも必要ですが、新たな投資や臨時的な支出に大きく左右されます。

★ 調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ① 期末にどれだけの資金残高があるのか
- ② 純資産額が増加しているのか

.....▶ **資金計画で判断することが適切**

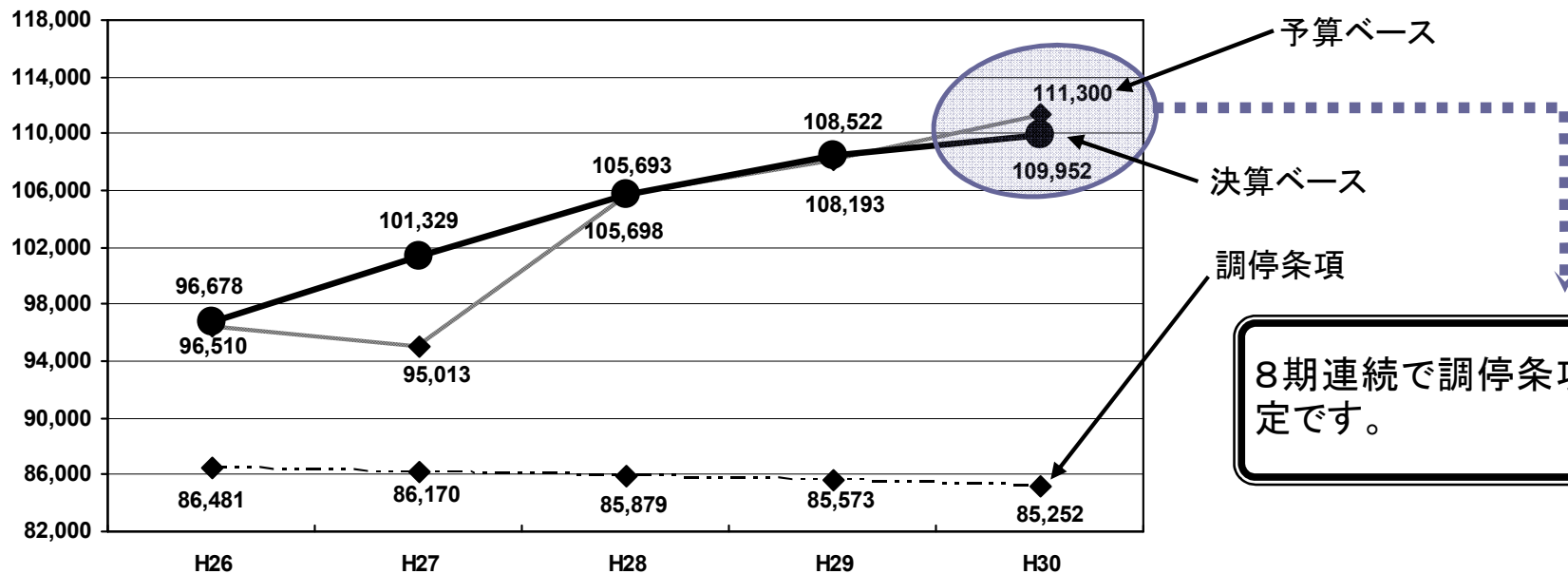
参考2：資金計画の見込み

(1) 期末資金残高の推移

(単位：千円)

	各年度の予算・決算実績			平成29年度上半期決算からの予測	
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
調停条項	86,481	86,170	85,879	85,573	85,252
予算ベース	96,510	95,013	105,698	108,193	111,300
決算ベース	96,678	101,329	105,693	108,522	109,952

(千円)



8期連続で調停条項の推定推移を上回る予定です。

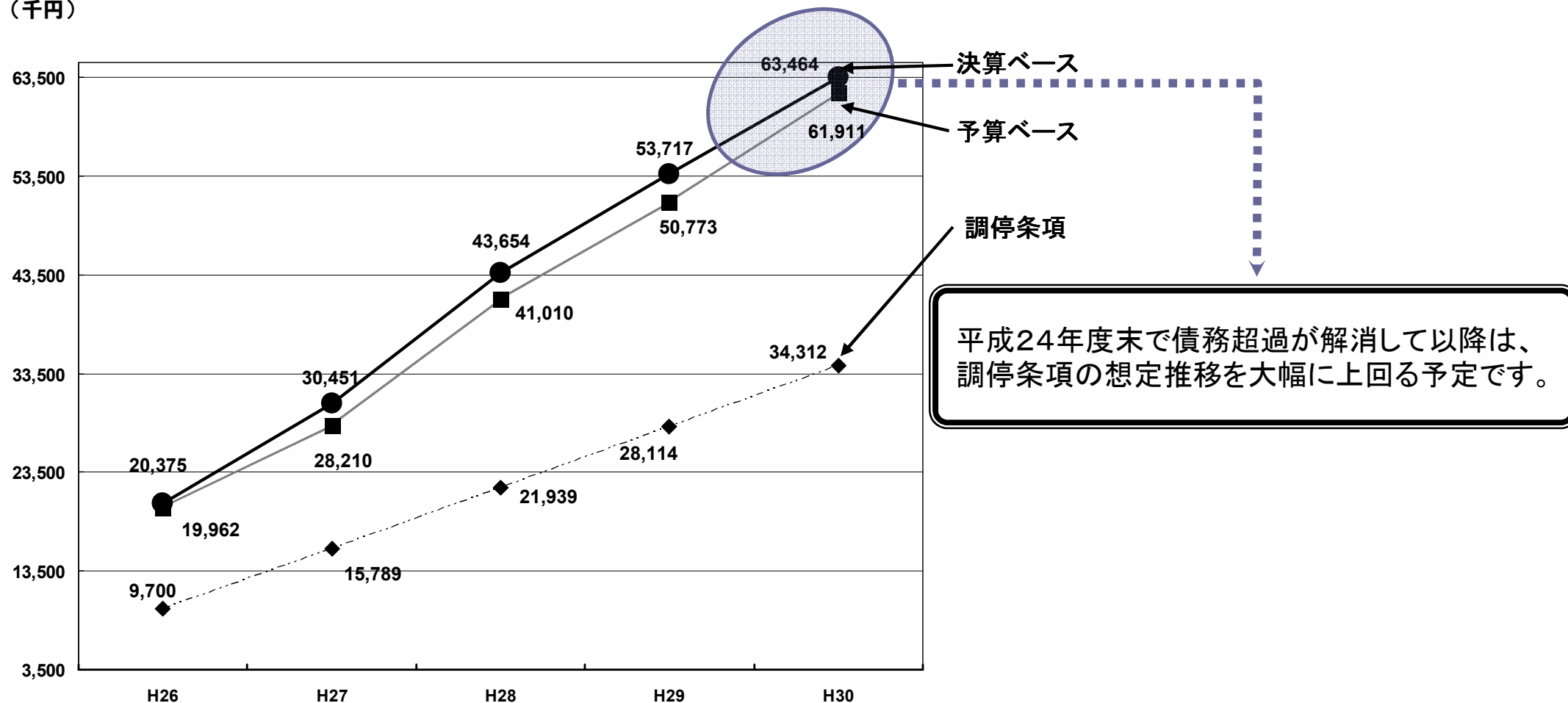
(2) 純資産額の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績			平成29年度上半期決算からの予測	
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
調停条項	9,700	15,789	21,939	28,114	34,312
予算ベース	19,962	28,210	41,010	52,543	61,911
決算ベース	20,375	30,451	43,654	53,717	63,464

(各数値は繰延税金資産を除いています)

(千円)



参考3：事業別売上高の推移

